

島根高P連だより

発行
編集

島根県高等学校PTA連合会事務局

松江市黒田町538 TEL/0852-22-8602 FAX/0852-22-8735
E-mail:shimakp@orange.ocn.ne.jp URL:https://shimakp.jp/高P連
ホームページの
QRコード

第69号

2025.12.15



伊福駿全国高P連副会長 挨拶

第67回 中国・四国地区高等学校 PTA連合会大会 島根大会特集

島根大会特集



石原恵利子副知事 祝辞



記念講演 山根公利 氏



研究協議 隠岐高校 PTA



受付の様子



案内

目次

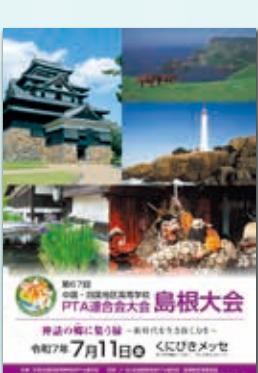
- ② 「第67回中・四国高P連大会島根大会のお礼」
島根大会実行委員会委員長 原 完次
第67回中・四国高P連大会島根大会の概要
- ⑥ 第74回全国高P連大会三重大会
- ⑦ 全国高P連会長表彰実践報告 松江東高校PTA
- ⑧ 全国高P連会長表彰実践報告 吉賀高校PTA
全国高P連会長表彰(個人)
- ⑨ 世界大会出場 会長激励費贈呈 横田高校ホッケー部
出雲農林高校カヌー部
- ⑩ 世界大会出場 会長激励費贈呈 島根中央高校カヌー部
幼こども園・小中・高・特別支援PTA合同研修会



神話の郷に集う縁
~新時代を生き抜く力を~
大会シンボルマーク



大会案内



大会要項



第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 島根大会開催協力のお礼

第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会
実行委員会委員長 原 完次

令和7年7月11日(金)、松江市のくにびきメッセにて開催いたしました「第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会島根大会」は、中四国の高校から総勢1104名のご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

本大会は「神話の郷に集つ縁～新時代を生き抜く力を～」をテーマに、研究協議を通して参加者一人ひとりが学びと感動を共有する有意義な時間となつたのではないかと思つています。

まず、開会に際しまして、島根県立松江北高等学校の安部沙彩さんによる国歌独唱では、その透き通つた歌声は会場全体を魅了し、これから始まる大会への期待を一層高めました。また、高校生による活動発表では、島根県立浜田商業高等学校郷土芸能部による迫力ある石見神楽、松江市立皆美が丘女子高等学校ダンス部の息の合ったダンス、島根県立出雲農林高等学校出農太鼓部による力強い和太鼓が披露され、若い力と文化の融合に、参加者全員が圧倒されました。また、松江工業、松江農林、江津工業、浜田水産の各高校による物

産販売も大盛況で、用意された商品は瞬く間に完売となりました。

そして、研究協議では、岡山県・金光学園中学高等学校、愛媛県・今治東中等教育学校、島根県・隠岐高等学校のPTAがそれぞれの取り組みを発表し、地域を越えて学び合う貴重な場となり今後のPTA活動への参考になつたのではないでしょうか。

記念講演では、山根公利氏をお迎えし、「ーーから生まれる人の幸せとは何か?」をテーマに講演いただきました。山根氏が自身のリターンを通して見出した地域との繋がりや、地方でもクリエイティブな活動ができる可能性、そしてネット社会だからこそ必要な「ホンモノに触れる」体験の大切さについてお話しいただき、多くの参加者に深い気づきを与えました。

最後になりますが、円滑な運営にご尽力いただいた松江市・安来市の高等学校PTAの皆様に心より感謝申し上げます。皆様の協力があつてこそ、この大会は成功を収めることができました。今後もこのご縁を大切に、中国・四国地区の各高校でのPTA活動がさらに発展することを願います。

第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 島根大会成功裡に終了 概要



第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会
島根大会は、「神話の郷に集つ縁～新時代を生き抜く力を～」をテーマに7月11日(金)くにびきメッセで開催され、県内514名、県外590名の合計1104人の参加があつた。

大会日程



会場近くの大型ビジョン

開会行事

最初に、島根大会実行委員会副委員長の曳野貴志氏が開式の辞を述べた。続いて、島根県立松江北高校の安部沙彩さんによる国歌独唱が行われ、その後、原完次実行委員会委員長、伊福聰全国高P連副会長、野津建一島根県教育委員会教育長が、主催者および共催者を代表して挨拶を述べた。その後、来賓の石原恵利子島根県副知事、および藤原亮彦松江市副市長より、歓迎の挨拶をいただいた。

原完次委員長は挨拶の中で、PTAは単なるボランティア団体ではないと強調した。PTAが社会教育に関する事業を通じて地域文化

①島根県立浜田商業高等学校
郷土芸能部 石見神楽
②松江市立皆美が丘女子高等学校
ダンス部 ダンス
③島根県立出雲農林高等学校
出農太鼓部 和太鼓

9時00分～9時30分 記念講演「ーーから生まれる人の幸せとは何か?」 10時40分～10時20分 開会行事	10時30分～12時00分 12時00分～13時00分 メカニックデザイナー 山根公利氏 13時00分～14時00分 昼食
14時10分～15時40分 研究協議 ①岡山県・金光学園中学・高等学校やつなみ保護者会 ～金光学園やつなみ保護者会の歩み～ 会長 藤井 秀和氏 ②愛媛県・愛媛県立今治東中等教育学校PTA 「生徒の夢を支えるPTAの役割」 ～教職員との連携による6年間の教育支援～ 会長 ピアース 惠利氏 ③島根県・島根県立隠岐高等学校PTA 「人情の島が創る隠岐高校」 ～地域が育む高校魅力化～	

15時45分～16時00分 開会行事
会長 島井 登氏



野津建二島根県教育長「挨拶」　曳野貴志県高P連会長「開式の辞」



国歌独唱 安部 沙彩さん



藤原亮彦松江市副市長「祝辞」



総合司会 赤池忍松江北高校会長

環境や文化、すなわち「ルーツ」から来る個性と想像力にあり、それこそがAー時代における差別化要因になること説く。

最後に、情報過多な現代において、「Aー」とは「ほどよく利用して付き合ひ」ことが重要であると結論づけた。情報が少なかつたからこそ育まれた「物思りにふける時間」と「想像力」、そしてSNSに依存するのではなく



記念講演講師 山根 公利氏

「一トから生まれる人の幸せとは何か?」
メカニックデザイナー 山根公利氏
島根県を拠点に活動している、アーティスティックデザイナーの山根公利氏は、日本屈指メカニカルデザイナー。山根公利氏は、日本の「コンピュータ産業の急成長(経済規模3兆円)」を背景に、一ト全盛時代における自身のキャリアと幸福論を語った。

記念講演

や社会福祉の増進へと貢献する「自主的な社会教育団体」であると定義した上で、「子供たちのために何がしたいか」という共通の想いのもと、多様な参加者が互いの知識や技術を持ち寄り、共に考え、学び、行動する姿勢こそが最も大切な役割だと訴えた。

しての本質的な部分を見つめ直すきっかけとなつた。東京では難しかった車の整備などを通じ、「本物の機械に触れる」と実践。江津工業高校で学んだ構造や素材の知識と、実物の硬さや重さの体感が結びつき、「フィクション」でありながら「実在感のある」緻密なデザインを生み出す原動力となつた。このデザインの個性は国内外で高く評価されている。また、自動車クラブを通じた地元アーティスター大塚康夫氏の顕彰活動や、地元の美術館での展示など、地域社会との繋がりが仕事の励みとなつてゐる。

経済的な自立のため過酷な新聞奨学生制度を利用して専門学校を卒業した自身の歩みを語り、クリエイターには困難を乗り越えられるほど「好き」と情熱が不可欠であると強調した。

Aー技術の進化については、Aーが緻密な絵を描ける時代になつても、著作権や信頼性の問題から全てを代替するには至つていないと指摘。クリエイターの真価は、その人が育つた環境や文化、すなわち「ルーツ」から来る個性と想像力にあり、それこそがAー時代における差別化要因になると説く。

最後に、情報過多な現代において、「十やAーとは「ほどよく利用して付き合つ」」ことが重要であると結論づけた。情報が少なかつたからこそ育まれた「物思いにふける時間」と「想像力」、そしてSNSに依存するのではなく

□ 当日実施した「記念講演」に関するアンケートより(抜粋)

「故郷の文化を基にした創造は、外の世界では個性になる」という言葉は、その通り

が行われた。



出雲農林高校 出農太鼓部 皆美が丘女子高校 ダンス部 浜田商業高校 郷十芸能部

□ 当日実施した「高校生の活動発表」に関するアンケートより（抜粋）

最初の開会行事でいきなり高校生の美しい声の国歌独唱にびっくりし、感動しました。国歌独唱は、みずみずしく伸びやかな歌声で、君が代がとてもステキに聞こえました。

高校生による透き通った歌声での国歌独唱は、開会式にふさわしい素晴らしいもので、魅了されました。

伝統を受け継ぐ高校生の姿に感動しました。神楽を見られただけでも来た甲斐が

高校生の活動発表

開会行事では、島根県立松江北高校の安部沙

ス部の「MGD Dance Performance」、島根県立出雲農林高校出農太鼓部の「疾風迅雷新七兵衛太鼓」の発表が行われ、どの発表も迫力満点で、生きとし生ける人間の姿に観客は圧倒された。



出雲農林高校 出農太鼓部 皆美が丘女子高校 ダンス部 浜田商業高校 郷十芸能部

□ 当日実施した「高校生の活動発表」

□ 当日実施した「高校生
に関するアンケート

「王の活動発表」に
より(抜粋)

ス部の「MGD Dance Performance」、島根県立出雲農林高校出雲太鼓部の「疾風迅雷 新七丘衛太鼓」の発表が行われ、どの発表も迫力満点で、生き生きとした演奏やパフォーマンスをしており、観客は圧倒された様子だった。



出雲農林高校 出農太鼓部 皆美が丘女子高校 ダンス部 浜田商業高校 郷十芸能部

ありました。

石見神楽を初めて見ました。とても素晴らしく、わくわくして最後まで楽しめませんでした。オーチたちもまるで生きているような動きで素晴らしかったです。これからも伝統を守ってください。ダンス部の演技はキレキレで、感動しました。

皆さん笑顔で、楽しげが伝わってくるダンスでした。

一人一人のダンスの技術が素晴らしかったです。高校生らしいかわいさ、かっこよさがあり良かったです。和太鼓の力強いバチさばきのかっこよさ、小さい子供があこがれるのもよくわかります。和太鼓の音がそろつていて、練習量がすごいと思われた。真剣な表情や笑顔、切れど、力の入れ具合が伝わってきた。

初めて伝統芸能をじっくり鑑賞しました。

こんなに伝統芸能が心に響くとは思いました。高校生の皆さんのが本気で取

り組み、伝統を大切にしていくという

思いがすごく伝わり、感動しました。日本の文化をこれからも大切にして欲しいと

思いました。

どの学校の生徒も生懸命で心打たれました。子供たちが何かに打ち込む姿は勇

気をもみれます。

研究協議

岡山県、愛媛県、島根県の三校の代表者により、各校のPTA活動について発表が行われた。その後、参加者との間で活発な質疑応答

が交わされた。参加者からは「様々な高校の取り組みを知ることができ、大変興味深く、参考になりました。いずれの活動も子供たちの将来を見守る夢のある取り組みだと感じました」といった声が聞かれ、本研究協議は、多くの示唆に富む、非常に有意義なものとなつた。

岡山県
金光学園中学・高等学校やつなみ保護者会
会長 藤井 秀和氏

「子とともに育つ」

～金光学園やつなみ保護者会の歩み～

金光学園中学・高等学校やつなみ保護者会長である藤井秀和氏は、78年にわたる保護者会の歩みと「子とともに育つ」理念を紹介しました。この理念は金光教四代教主の歌に由来し、親も子と共に成長し、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という学園の合言葉を実践することを図ります。学園は全人教育を掲げ、グローバル教育(中学でのオーストラリア研修など)を通じた「世のお役に立つ人材の育成」に取り組んでいます。

保護者会は昭和23年発定。「やつなみ」(八つの波の意)として活動し、指導部・教養部・庶務部の三部制で運営されている(会員80名)。主な活動は、地域交流の「地区会」、機関誌「やつなみ」(創刊270号超)、親睦を図る



金光学園やつなみ保護者会の発表

しかし、近年は総会参加率の減少という課題に直面している。同会は、77年間培った活動の素晴らしさを継承し、「よきことの話題にのぼる」書きをれば、世にあかるさの加はるごとしの歌の精神に基づき、課題克服と活動の充実を継続し、子供たちのため、平和な世の中のために貢献していく決意を表明した。

愛媛県
愛媛県立今治東中等教育学校PTA
会長 ピアース 恵利氏

「生徒の夢を支えるPTAの役割」

「教職員との連携による6年間の教育支援」、愛媛県立今治東中等教育学校は中高一貫校として誠実・鍛錬・創造を校訓に掲げ、生徒の個性を伸ばす6年間の一貫教育を実践。2026年度には後期課程「スポーツ」「ーストア」を新設するなど、多様な進路選択肢を提供している。

PTAは会長、副会長、理事などから構成され、総務、人権教育、進路指導、生活指導の4つの専門委員会を中心活動を展開。教職員と緊密に連携し、生徒の学校生活を多角的に支援している。

主な活動には、会員相互の親睦や進路意識

向上を目的とした大学訪問付きの「研修旅行」、運動会での飲食物販売、そして文化祭「青藍祭」での「PTAバザー」がある。特にバザーでは、生徒の研究活動支援として培養肉を使用した焼肉を提供し、生徒の主体的な学びをえた。さらに、教職員との懇親会や生徒会との座談会を通じ、学校運営への理解と協力を深めている。

特筆すべきは、地域の山林火災を教訓に、PTAの発案でドローン体験を防災避難訓練に導入したことである。これにより、災害時の情報収集の有効性を生徒が実感し、防災への関心を高めることに貢献した。

同会は、今後も教職員と一体となつて協力し、生徒たちが自分らしさを發揮しながら将来の夢に向かって歩めるよう、6年間の学校行事と充実した学校生活を支えていく決意を表明した。



今治東中等教育学校PTAの発表

島根県
島根県立隠岐高等学校PTA
会長 鳥井 登氏

「人情の島が創る隠岐高校」

～地域が育む高校魅力化～

離島にある小規模校である隠岐高校が地域と一緒に進める「高校魅力化」の取り組みについて発表があった。同校は創立110周年を迎えて、島外からの生徒も寮で受け入れ、

地域全体を学びの土壤としている。

教育目標は「未来を拓く、自立した生徒の育成」であり、この目標を具現化するため「隱岐高等学校魅力化「ソーシャム」を組織し、地域との連携を構築。グランデデザインの中心に「隱岐」「ネス」「世界ジオパーク」を位置づけ、ジオパーク研究を必修科目として一年生から3年間段階的に探求学習を深めている。

生徒たちはその成果を国内だけでなく、アジア太平洋ジオパーク大会など世界まで広げ、英語でプレゼンテーションを行っている。

また、キャリア教育の一環として中高生を対象とした合同企業説明会「ジョブフェア」を町と連携して実施し、将来の進路選択の意識付けを図る。伝統文化の継承にも注力しており、商業科生徒が牛突きの歴史と現状を調査して小学生に紹介する活動や、地域の師範による三味線での隱岐民謡指導を授業に取り入れている。その他、「放課後先生」活動やウルトラマラソンでの演奏ボランティアなど、生徒が積極的に地域貢献活動に参加している。

PTAは文化祭での模擬店や校則見直しへの参画を通じて学校運営を支援。鳥井会長は、高校卒業後の割合が「ふるさとを誇りを持つて語れる人」になり、いつか隱岐の島を意識した人生の選択をし



隱岐高校鳥井会長の発表

てくれることを願つていて。今後は活動の「見える化」と情報発信に努め、次世代にとって魅力的な学校となることで、「よかつたが響く町、隱岐の島」の実現に貢献していくと結んだ。

○今治東中等教育学校への質問 (PTAと教職員の連携)

働き方改革が進む中で教職員との「ミーティング」をいかに円滑に図つておられるかについて質問があつた。

今治東のピアース会長は、「コロナ以前からの継続的な活動に加え、校長や管理職が前向きに検討してくれる姿勢、そして理事會前の短い時間や少人数での非公式な対話機会を積極的に設けていた点を挙げた。特に「個室」を用意するなど、教職員が安心して参加できる環境を整えておられたことも成功のポイントだと述べた。

○中高一貫校への質問(保護者の悩みへの対応)
義務教育から成人までの激動の6年間を過ごす生徒だけでなく、保護者自身の悩みを吸収・解消するための取り組みがあるかについて質問があつた。

金光学園の藤井会長は、エリヤ別で開催される「地区会」や全役員会など、教員も交えた「集まる機会の多さ」が保護者間の情報共有や悩み解決に繋がつていてと回答。今治東のピアース会長は、直接的な悩み相談の場は少ないといつても、理事会会前の時間を利用して理事の悩みを本部が吸い上げる取り組みを行つていると現状を述べた。

○隱岐高校への質問(卒業生の島外流出対策)
卒業生の9割が島外へ出る現状とその対策について質問があつた。隱岐高校の鳥井会長は、高校単体ではなく町全体で取り組

むべき問題だと強調。生徒に対しては、一度外に出て大きな世界を見た上で「ふるさと隠岐を誇りを持って語れる人」になつてほしいと伝えている。行政としては、リターン・パートナーを促す移住政策(家賃補助、空き家改修補助など)や、マルチワーカー制度などを展開し、若年層の人口減少に長期的な視点で対応していると説明した。

最後に、竹下耕二副委員長が感謝の気持ちを込めて閉会の辞を述べ、島根大会は盛会のうちに幕を閉じた。

□当日実施した「研究協議」に 関するアンケートより(抜粋)

「子どもに親も育つ」という口頭のPTA活動で思つていていたことが、できました。

『子供が生まれたことで親になる。親も子も学ぶ』という言葉が心に残り、大切な言葉だと感じた。

活動者同士の「ラボレーショナ」や、子供の学びを様々な形で支援する工夫された意欲的な取り組みがなされており、とても参考になつた。

教員と保護者の関係が良好で、物事がスムーズに進んでいたと思つました。

保護者間の親睦が深まり、活動が活発になつた」「参加してよかったです」「来年の大会に

もぜひ参加したい」といった意見が多数寄せられた。また、閉会時の見送りでは、手のひらに「感謝」と書いて手を振る参加者グループも見受けられ、

ひらに「感謝」と書いて手を振る参加者グループも見受けられ、

ひらに「感謝」と書いて手を振る参加者グループも見受けられ、

閉会行事

来年の開催地である香川県高松市のPTAビデオが上映され、香川県高P連の杉本勝利会長が次期大会への参加を呼びかけた。

続いて、原完次委員長が閉会の挨拶を行つた。

原委員長は、大会に携わったすべての方々に深く感謝を述べた後、大会テーマ「神話の郷に集う縁々 新時代を生き抜く力を」に言及した。そして、厳しい時代を迎えるPTA活動において、参加者が今回の学びとネットワークを各単位や家庭、職場へと活かし、来年の香川大会に向けて連携を強化していくよう呼びかけ、大会を締めくくった。



お見送り



次回開催県香川県高P連会長挨拶



原完次委員長 閉会の挨拶

高校生の物産販売

本大会では、島根県の高校生が生産した物品を販売し、高校生の活動にPTA会員が理解を深める機会とする」ことを目的に、「高校生の物産販売」が行われた。

○出品高校と物産

- 島根県立松江工業高等学校
- 島根県立松江農林高等学校
- 島根県立江津工業高等学校
- 島根県立浜田水産高等学校
- 【イフライラ棒】(キット)
- 【イチゴジャム・マーマレード・ジャム等】
- 【デジファブ作品の小物等】
- 【サバ味付け缶詰・マグロ油漬け缶詰】

□当日実施した「高校生の物産販売」に関するアンケートより(抜粋)

「イフライラ棒購入しました。家で作てみるのが楽しみです。

「イフライラ棒を子供のお土産に購入しました。工業高校の作品は面白いですね。

「手頃な値段にもかかわらず、ランタンやコースター等があり、購入しました。

「木工とデザイン、加工技術が実習できつてわかりました。

「ふくちゃんがかわいかったです。買えて良かったです。

「手頃な値段にもかかわらず、ランタンやコースター等があり、購入しました。

「木工の力チャガチャ」は感動しました。面白かったです。同じ工業高校として参考になりました。

「高校生の技術の高さにびっくりしました。説明も高校生が行っていて良かったです。

「生徒さんも親切で、「カブセル開けましょうか」と声をかけてくれて嬉しかった。

「サバ缶が一瞬で売り切れおり、商品に対する高校生のプロ意識を感じる品ばかりで、素晴らしいです。

「自分たちの生まれ出したものを誇りを持って販売されている姿に、同じ年齢の子を持つ親としても嬉しくなりました。」



浜田水産高校



江津工業高校



松江農林高校



松江工業高校

第74回 全国高等学校PTA連合会三重大会 出会いはじまる常若のくに

～「集い、想い、継なぐ」三つの重なる明日への力～

第74回

甲子園に導いた元監督が伝授～

第3分科会

「A一代時代におけるWell-Beingなキャラデザイン」～青春期における感情・感動体験の重要性～

今年の全国大会は8月21日(木)、22日(金)に三重県津市産業スポーツセンターで開催された。全国から6,000人を越えるPTA関係者が集い、島根県からも26校46名が参加した。また、アーカイブ配信も行われ、島根県からは2校が参加した。

○大会第1日目

開会式と表彰式が行われた。表彰式では、島根県からは次の団体と個人が受賞された。

全国高P連会長表彰(団体)

- ・松江東高校PTA
- ・吉賀高校PTA

全国高P連会長表彰(役員)

- ・木村直樹さん

(令和5年度高P連会長、島根大会準備委員会委員長)

- ・原完次さん

(令和6年度高P連会長、島根大会実行委員会委員長)

□第2分科会 基調講演 概要

三重県の県立高校2校で23年間野球部の監督を務めた松葉健司氏による基調講演が行われた。

松葉氏は長年の指導経験の中で、さまざまなタイプの生徒たちを見てきた。例えば、勉強や部活動に生懸命ながら結果が伴わない生徒、素晴らしい実力を持ちながら本番で発揮できない生徒、逆に、少ない努力で結果を出す生徒や本番に強い生徒などである。多くの生徒を観察し、対話を重ねて共通項を探る中で、松葉氏

第4分科会

「Let's PTA」～からPTA活動を考える～

□各分科会のテーマ

第一分科会

「子育て、そして「親育ち」～言葉の力を磨き、子どもとの心の声を聴こう～

第二分科会

「実力発揮のコツ」～無名公立高校2校を

が行き着いた結果



開会式

論が「集中力」であった。

現代は情報が溢れ、価値観も多様化している。その結果、この「集中力」が低下しやすくなる。「辛」に「幸」を加え「幸」にするところにはバランスがある」といった心の整え方や、「集中力アップのコツ」について、簡単な実技を交えながら、実力発揮のための具体的な秘訣が伝授された。

○大会回顧

□記念講演

井村屋株式会社 代表取締役会長CEOの中島伸子氏による記念講演が開催された。演題は「『尊厳は明日の力』～壁を開ける手の鍵～」で、自身の苦難を乗り越え、それを明日への力に変えた体験に基づくものであった。講演の概要は以下の通り。

中島伸子氏は、看板商品「あずきバー」をはじめとする多くのロングセラー商品を持つ井村屋株式会社の会長を務めている。彼女の人生は数々の試練に満ちており、大学生時代には、死者30名、負傷者700名という甚大な被害を出した北陸トンネル火災事故に遭遇した。九死に一生を得たが、一時は声をほとんど失い、夢であった教師への道を断念せざるを得なかつた。生きる希望を見失いかけていた彼女を立ち直らせたのは、「君だけの『バー』を探すことだ」という父親から

の言葉であった。

この「辛」に「幸」を加え「幸」にするところには、「バース」の生き方を信条に、中島氏はアルバイトとして井村屋でのキャリアをスタートさせた。当時、女性が仕事を続けることは困難な時代であったが、アルバイトにも正社員と同等の機会を与える井村屋の社風に惹かれ、努力を重ねた結果、やがて女性初の経営者へと上り詰め、現在に至る。

また、彼女は母として、仕事と子育てを両立させ、3人の子どもを育て上げた。その際の信念として、「子どもは世界の宝であり、たまたま自分のところに生まれただけで世界の子どもの一人。未来からの授かりものである」「子を親は愛おしみ育て、社会に出す責任がある」「子どもは必ず良い点を持つて生まれている」と紹介された。

最後に中島氏は、アメリカの思想家ラルフ・ワルド・エマーソンの言葉「すべての壁は扉だ。そしてその扉はいつもあなたの手の中にあります」を紹介し、聴講者に対し、困難を乗り越える力は自分自身の中にあることを示唆し、講演を力強く締めくくった。

松江東高等学校

松江東高等学校は昭和五十八年四月創立、令和五年度に創立四十周年を迎えた比較的新しい学校です。PTAは現在は「研修委員会」と「広報委員会」で活動しており、研修委員会では学園祭である「東雲祭」でのかき氷出店やガーデニング講習会、広報委員会では年一回の広報誌発行を主な活動としております。

かき氷出店は、「ロナ禪でいつたん途絶えた東雲祭での飲食物提供の賑わいを取り戻そう」と令和五年度から取り組んでおり、生徒にも好評です。

全国高P連会長表彰報告

島根県立松江東高等学校 PTA会長

青山 強

松江東高等学校のPTAの取り組み

第75回 全国高P連大会 大分大会	
とき	令和8年8月20日(木)、21日(金)
ところ	大分市・別府市
内容	かき氷出店 「湯ごころ 真ごころ 親ごころ」 ～輝く未来を切り開け～
記念講演	内川 聖一氏(元プロ野球選手) 演題「夢が導く 諦めない気持ち」

ガーデニング講習会は約三十年の歴史があり、地域の花屋さんや「ワーアレンジメントに取り組んでおられる講師の方をお招きし、保護者対象に「苔テラコウム」「多肉植物の寄せ植え」「ハーバリウム」などを二時

間程度かけて制作し、東雲祭で展示して文字通り花を添える活動です。例年多数の参加があり、にぎやかに制作を楽しんでください



東雲祭かき氷出店



ガーデニング講習会

吉賀高校のPTAの取り組み

島根県立吉賀高等学校 PTA会長

石田 剛

島根県高P連顧問 令和5年度島根県高P連会長 松江北高校会長
第67回中・四国高P連島根大会準備委員会委員長

木村 直樹

本校PTAは、令和7年8月21日に開催された第74回全国高等学校PTA連合大会三重大会において、全国高P連会長表彰を受彰いたしました。栄ある表彰をいただけたことは、日頃より本校のPTA活動にご理解・ご協力を賜っている保護者の皆さん、教職員、地域の方々のお力添えの賜物であり、深く感謝申し上げます。

本校PTAでは、「生徒たちの豊かな学びと成長を、家庭と地域がともに支える」ことを目的に、年間を通してさまざまな活動に取り組んでいます。その中でも代表的な実践として、三つの活動をご紹介します。

一つ目は、毎年恒例となっている学園祭での無料カレーの提供です。当日は早朝から保護者が集まり、手分けして野菜を切り、数種類のルーを混ぜて大鍋で丁寧にカレーを調理します。今年は、小さなお子さま連れの来場者にも安心して楽しんでいただけるよう甘口に仕上げ、辛さを求める方には別添のスパイスを用意しました。また、生徒バザーの模擬店の妨げにならないよう配慮しました。

二つ目は、秋の交通安全週間に合わせて実施している「交通立ち番活動」です。PTA役員が連携し、顔の見えるPTA活動を大切にしてまいります。



カレー盛り付け



カレー調理

員が早朝に正門前に立ち、生徒の登校を見守るこの活動は、安全意識の向上のみならず、保護者と生徒・地域との交流の場ともなっており、毎年多くの協力を得て継続されています。

三つ目は、三年生の卒業時に発行するPTA会報の編集・制作です。一年間の活動報告に加え、保護者や教職員から卒業生への温かいメッセージも掲載し、生徒に残る記念誌となっています。

私のPTA活動は子供が高校進学した令和3年度から始まります。最初は高校での副会長役からスタートし、その年度には第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会が島根県民会館で開催されました。その時には受付係として大会に参加しましたが、「ロナ禍の影響もありリモート併用での開催でもありますので、現地参加者は少なかつたのですが全国大会に少しだけ触れる機会を頂けました。

時間が経ち、私が経験した山口自身が会長となる令和5年には仙台において大会が開催されますが、木村先生と一緒にPTA活動でたくさんの仲間も出来、私はとても何とか空港で一夜明かす危機を回避することができ出来、翌日に無事帰宅することが出来ました。振り返っても中々のトラブルでしたたが、今では笑い話です。

今回の表彰で、私と同時期に活動した山口と愛媛の会長も表彰を受け、私の後で会長を受けられた方も同日表彰されました。今までのPTA活動でたくさんの仲間も出来、私はしては恵まれたPTAXメンバーと貴重な時間が過ぎ去りました。

今後も長い間たくさんの方がPTA活動に参加協力されると思いますが、よき時間と良い仲間に巡り合うことが出来ます。ぜひ今後多くの方にPTA活動に参加していただけることを切に願います。今後も高等学校PTA連合会の益々の発展を祈念して私の筆を置かせていただきます。ありがとうございました。



これからも、生徒たちが安心して充実した学校生活を送れるよう、地域・家庭・学校活動を大切に



吉賀高校石田剛会長

自身が会長となる令和5年には仙台において大会が開催されますが、木村先生と一緒にPTA活動でたくさんの仲間も出来、私はとても何とか空港で一夜明かす危機を回避することができ出来、翌日に無事帰宅することが出来ました。振り返っても中々のトラブルでしたたが、今では笑い話です。

今回の表彰で、私と同時期に活動した山口と愛媛の会長も表彰を受け、私の後で会長を受けられた方も同日表彰されました。今までのPTA活動でたくさんの仲間も出来、私はしては恵まれたPTAXメンバーと貴重な時間が過ぎ去りました。

今後も長い間たくさんの方がPTA活動に参加協力されると思いますが、よき時間と良い仲間に巡り合うことが出来ます。ぜひ今後多くの方にPTA活動に参加していただけることを切に願います。今後も高等学校PTA連合会の益々の発展を祈念して私の筆を置かせていただきます。ありがとうございました。

島根県高P連顧問 令和5年度島根県高P連会長 松江北高校会長
第67回中・四国高P連島根大会準備委員会委員長

U18ホッケーアジアカップ出場 会長激励費贈呈

島根県立横田高等学校 ホッケー部

県高P連では、当連合会に所属する高校の生徒やその生徒を指導する学校の指導者がスポーツ競技会や「コンテスト・審査会等の世界大会に日本を代表して出場する場合に、その栄誉を称え、健闘を期待して会長激励費を贈呈すること」にしている。令和7年7月に中国の四川省達州市で開催されたホッケーのU18アジアカップに日本代表として出場した3年栗原莉来さん・古澤知宙さん、上田龍太郎さん、2年吉岡真大さんに令和7年7月23日(水)に横田高校校長室で鬼野貴志高P連会長が激励費を贈呈した。

○結果

・男子 リーグ戦を勝ち抜いて
準決勝 日本 6-1 バングラデシ
決勝 日本 3-1 パキスタン 優勝
※上田選手と吉岡選手は得点を決めて活躍。

・女子 リーグ戦を勝ち抜いて
順位決定戦 日本 13-1 カザフスタン
決勝 日本 2-1 中国 優勝
※栗原選手は決勝戦のキーパーを務めた。

栗原選手には、代表して左記のように大会遠征時の手記を書いてもらつた。

アジアカップに参加して

島根県立横田高等学校 三年 栗原 莉来

私は、7月3日から13日かけて中国の達州市で行われた、AHFユースアジアカップに日本代表のGKとして出場し、優勝することができました。日本代表として国際大会に出場するのは2回目でしたが、アジアカップという大きな大会に出場するのほとても緊張しました。しかし、日本代表として戦うことの責任や誇りを感じながら大舞台に立てたことはとても嬉しかったです。



横田高校の4選手



贈呈式

大会期間は10日間ととても長く、中国の慣れない環境の中で生活するのは大変でした。特に食事の面では初めて見る料理も多くあり、栄養を考えながら食事を摂ることが難しかつたです。

試合では、計6試合を行い、リーグ戦では順調に得点を重ね勝利することができました。しかし、中国代表との準決勝では、高い技術や戦術を持った選手が多くいて、自分たちの思うようなプレーがなかなかできず苦戦をしました。私もこの試合では、失点を許してしまい、世界との技術の差を感じました。しかし決勝戦では再び中国代表と対戦し、準決勝では同点でしたが、1対0で勝利することができました。準決勝の反省を活かしてプレーを行い、全員が最後まで諦めなかつたからこそ掴んだアジア1位だと思います。最高の仲間と最高の景色を見ることができてとても幸せだつたし、本当に頑張れうと思いました。

帰国後も、多くの人に祝福していただきました。優勝できたのもいつも支えてくださっている家族や地域の方、お世話になつたすべての方々のおかげなので、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからもたくさんの方々にプレーや結果で恩返しができるよう努力し続けたいと思います。また、日本代表としてさらに活躍できるよう頑張ります。応援していただき本当にありがとうございました。

2025アジアパシフィックカヌースプリント大会出場 会長激励費贈呈

島根県立出雲農林高等学校 カヌー部

石川県小松市で開催された2025アジアパシフィックカヌースプリント大会に、日本代表として出場した出雲農林高校カヌー部の宮原悠輝さん、松尾夏帆子さん、多々納未来さん、石原起人コーチに4月28日(月)出雲農林高校校長室で加藤光夫副会長が激励費を贈呈した。出場種目と結果は次のとおり。

○結果

U16 女子カヤック・ペア

500m 多々納・(中西) 6位

U16 女子カヤック・フォア

500m 多々納・(他日本代表3名) 2位

U16 男女混合カヤック・ペア

500m 多々納・(塙谷) 予選5位

U16 男女混合・カヤック・リレー

200m×4 多々納・(他日本代表3名) 3位

U18 女子カヤック・ペア

500m 松尾・(橋) 6位

U18 女子カヤック・フォア

500m 松尾・(他日本代表3名) 4位

U18 男子カナディアン・ペア

500m 宮原・(仲宗根) 1位

松尾夏帆子選手には、代表して左記のように遠征時の手記を書いてもらつた。

2025アジアパシフィックカヌーントカップに出場して

島根県立出雲農林高等学校 カヌー部 3年 松尾 夏帆子

今回私は初めての国際大会に出場しました。2025アジアパシフィックスプリントカップは石川県小松市で開催され、インドモングル、コージーランドなど、計6カ国の選手とレースを行いました。海外の選手たちの隣に並び、レースをすることは初めての経験で、国内大会とは異なる雰囲気や緊張感がありました。また、試合期間に会場や宿泊先などで世界中から集まつた選手たちと過ごす時間は、まるで日本ではないどこかにいるよう

な不思議な気分でした。

レースでは、カヤックペアとカヤックフォアの2種目に出場しました。どちらもチームで戦う種目だったため、日本各地から集まつた代表選手と短時間で調整し、漕ぐことの難しさを感じましたが、一緒に漕ぐ選手と積極的に意見交換をし、レース展開について相談し合いました。話し合いを重ねることによって漕ぎの技術や戦略などについてお互いの考えを理解し合えたことは、私の今後の競技にも生かせる貴重な出来事でした。私自身の目標としていたメダル獲得は達成できず、悔しさを感じました。しかし決勝戦では再び中国代表と対戦し、準決勝では同点でしたが、1対0で勝利することができました。準決勝の反省を活かしてプレーを行い、全員が最後まで諦めなかつたからこそ掴んだアジア1位だと思います。最高の仲間と最高の景色を見ることができてとても幸せだつたし、本当に頑張れうと思いました。

祝福していただきました。優勝できたのもいつも支えてくださっている家族や地域の方、お世話になったすべての方々のおかげなので、感謝の気持ちでいっぱいです。

試合以外では、他の国の人たちとの交流が印象に残っています。英語が得意ではない私ですが、カヌーという共通のスポーツを通じて、言葉の壁を越えて繋がることを実感しました。さらに、国際交流を通じて、言葉の壁を越えて繋がることを実感しました。今まで知らなかった国の文化などを知ることができました。この大会で得た経験を生かしてこれから的人生でも国際的なフィールドで活動し、国境を越えて多様な価値観を尊重し合う人間になりたいです。

また、今回の国際大会出場にあたり温かいご支援、ご声援をいたいたことに、心から感謝いたします。全力で試合に臨むことができました。多大なる応援ありがとうございました。



左から宮原選手、多々納選手、松尾選手

島根県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

(こども総合保険)

**オンラインでも
お申込みいただけます!!**

(詳しくはパンフレットをご確認ください。)

2025年1月現在の内容です。

選べる4プラン (2025年度版)

年間掛金【一時払】

Xプラン

18,450円

(1年分の掛金)

Gプラン

13,320円

(1年分の掛金)

Bプラン

8,260円

(1年分の掛金)

Cプラン

6,220円

(1年分の掛金)



総合保障制度の特長

※プランによってセットされている補償項目は異なります。総合保障制度の詳細に関しましては、パンフレットをご覧になるか取扱代理店・扱者または引受保険会社にお問い合わせください。

- 自転車事故でお子さまが加害者になってしまった場合の損害賠償責任も
国内無制限補償!
- おケガは補償期間中、1日24時間(学校が休みの日も)補償!
学校部活動中はもとより地域のスポーツクラブでのおケガにも備えられる!
- 熱中症、細菌性食中毒、ウィルス性食中毒を補償
- 学校の授業・登下校中などにお子さまが携行している身の回り品
(メガネ、制服、タブレット端末等)を補償
(修理費または時価額のいすれか低い金額を補償します。自転車等一部補償対象外のものがあります。)
- オンラインで簡単に保険金請求(デジタル保険金請求)

※デジタル保険金請求の対象となる補償の有無は、加入者証にてご確認ください。

取扱代理店・扱者

有限会社メイジ

出雲市斐川町直江4888-4
(受付時間:午前9:00~午後5:00 土、日、祝日、年末年始を除く)
TEL.0120-001-230(通話料無料)

引受幹事保険会社

AIG損害保険株式会社 山陰支店

松江市伊勢宮町519-1 山陰中央新報駅前ビル6F
(受付時間:午前9:00~午後5:00 土、日、祝日、年末年始を除く)
TEL.0852-26-2781 FAX.0852-26-2776

